

審議会の概要	
名 称	令和５年度第１回向日市地域福祉計画策定推進委員会
日 時	令和６年３月１２日（火）午後２時から午後３時２０分まで
場 所	永守重信市民会館 第１会議室
参 加 者	（委員）杉本委員、山本委員、籠谷委員、佐野委員、高畠委員、平井委員 条委員、村上委員、佐生委員
	（幹事）安田、紺野、大野、藤野、岩谷、田口
	（事務局）大山
議 長	拾井委員長
傍 聴 人	０人
議 事	
１ 開 会	
２	
（１） 会議の公開について	・公開に関する要綱第２条の規定により公開会議となる。会議録を用意し公開することとなる。
（２） 地域福祉計画の進行状況について	・事務局から、第２期向日市地域福祉計画（後期計画）及び第１期向日市自殺対策計画進行表（令和５年度）に基づき、計画の進行状況を説明
【主な質問回答】	
（委 員）	手話の推進促進のところで、手話漫画はどこで売っているのか。
（事務局）	市役所であれば、東向日別館の市民課窓口か、本館１階の会計課で販売をしています。
（委 員）	認知症カフェの延べ人数が４４２人となっていますが、集計期間は９か月ですか。どこで開催していますか。
（事務局）	令和５年１２月末時点までの９か月の人数です。開催場所は、向日市福祉会館と向陽苑です。
（委 員）	去年の敬老会で、AIによる字幕がついていた。どうしても誤変換があるので、誰かが、修正や訂正するようなことになるのではないかと思います。
（事務局）	AIが表示した誤変換について、修正する等の役割が、要約筆記者が行うものなのかどうかというところの整理から検討が必要です。
（委 員）	74番の避難行動要支援者名簿管理システムの導入を進めたとありますが、具体的にお教えいただけますか。

- (事務局) 避難行動要支援者名簿管理システムについては、今年度、主要事業ということで取り組んでいます。これまでから要支援者の方々を支援するための名簿を作成していましたが、手動で随時更新を行うことが難しい部分がありました。あと対象者の人数が、今 5,000 人ぐらい超えているので、地震などがあった場合、その方々を本当に支援できるのかというがあるので、対象者を絞ることでより効率よく、避難行動要支援者の方々を支援していくことを検討しています。その中で、まず要支援者システムと住基連携システムを連携して、自動で更新ができるっていう形を取り入れようとしています。
- (委員) 過去の台帳は、要支援者の方に希望を取られて、それを基に台帳ができたと思うのですが、今回はそういった作り方ではなくてということですか。
- (事務局) 今まで、65 歳以上の方々に希望される方は出してくださいという形でしたが、希望対象数が増えているので、要介護のレベルの高い方などから順番に、こちらで対象者の方を抽出して、対象となる方に書類を送付し、本人が希望されるのであれば、順次登録していくという形を設ける予定です。
- (委員長) 災害時の要支援者等の話ですが、主に高齢者、障がい者の方が中心だと思うのですが、先日の能登の地震を見ても、たまたま元日で帰省しているという行政も把握しがたいような人たちもいらっしゃる。それが観光都市であれば、旅行客も災害に遭うかもしれないし、外国人の方もいらっしゃるかもしれないということで、もちろんこういうシステムは、住民の方でというのはわかるのですが、掴みきれていない方々も、発災時にはいらっしゃるという視点も忘れないでほしいなと思います。
- (委員) 各ページに高齢介護課の施策がうたっておられます。その中で、以前もこの会議も出ましたが、8050 問題やひきこもりなど、そういう全体を網羅したというか、高齢者だけに限らず、例えば、ひきこもりなんかは、子どもの引きこもりも関連しますし、そういう縦割りじゃなくて、横断型の施策を行政としてどのように取り組んでおられるか。分かる範囲で結構ですので教えていただきたいと思います。
- (事務局) ひきこもりの問題は、自治体でも難しい問題として捉えています。
地域福祉課だけでなく、子どもであれば子どもの施策、教育委員会も含めて、横軸で各課が連携しながら、情報共有を図りながら都度対応してもらっているという状況です。
- (委員) 自治体が、福祉関係機関の社会福祉協議会や包括、そういうところと

横断型に関係者が一堂に会して、地域の問題をピックアップするというそういう施策とかは考えておられますか。

(事務局) 重層的支援ということで、自治体、社会福祉協議会、包括や地元の方々が入っていただいて、みんなで話を共有しながらしていくという形で、自治体で進められているところもあります。

向日市としては、まだ今すぐということではなかなか動き始めが正直難しいというところもありますが、特に社会福祉協議会とは、そういった話の方も日頃していますので、そういう重層的な支援をこれからしっかり取り組んでいきたいなとは思っております。

(委 員) 向日市は、「これから」とおっしゃったのと、「難しい」とおっしゃったことについて、その何が難しいのかお教えいただけますか。

(事務局) 難しいっていうのは、最近地域の希薄化っていうのが、自治体としても一番懸念しているところでございます。自治体、社会福祉協議会、包括が熱心になっても、最終的には身近におられる方々の支援、目に見える支援というのが、一番必要になってくるかなと思っているので、そこが自治体としても頭を悩ましているところではあります。

(委 員) 一人も見逃さないというようなことを政府も言っていましたから、漏れなくというのはなかなか難しいと思いますが、網羅的にお願いできたらと市民としては思います。

(委 員) 5 ページの 43 ですが、高齢者が住み慣れた地域で生き生きとして、安心して暮らせる地域を作りましょうということだと思います。

昭和の時代では、各地域で 5 人組と言って、5 軒が一括りになって、何かあったときに助け合うというようなことがあったわけですが、だんだん人口も増えて、なかなか難しくなってきたと思います。そういうような密になることが減ってきているので、これからは、どういうことをしていけば、みんなが向日市に住みたいなと思ってもらえるか。そういうようなことも含めて、ご意見をお尋ねしたいと思います。

(事務局) 地域のつながりは大切だと思っています。高齢になればなるほど、お子さんも外に出て行かれたりするので、地域のつながりがないと、それこそひきこもりで孤独になってくることもあります。外に出る機会を行政としてもなるべく提供したいと思っておりますし、例えば、老人クラブの活動なども、より活発になれば、そこに行きたいと思うので、行政としては、周知することによって、新たな人も集まってきて、また新たなコミュニティが生まれていくであるでしょうし、そういった取り組みが少しずつ広がっていくことで、皆さんが集まる場所を少しでも提供していったら、仲良くなって住みやすい街づくりをしていくため

にも、そういった助けが行政としてはできればなと思っているところ
です。

(委員長) 元気な高齢者は、いろいろ取組もあって参加もできますがそうでは
ない方などは、不安になったりします。その辺をどう地域で支えていく
かということが重要になってきます。この地域は、都会化していますから、
その分希薄化が進んできている。その希薄化の中で、そういった問題
を抱えておられる方をどう支えていくかっていうのは大きな問題に
なってくるでしょうね。

(委 員) 12 ページの 109、生活困窮者の自立支援の事業のところ、今後も
支援を要する場合が増えることが見込まれるとありますが、最近の報
道で、過去最多の生活保護の申請数ということもありましたので、何
か具体的に策をいくつか持っておられるのか、お聞かせいただけたら
と思います。

(事務局) 向日市の生活保護は、横ばいで推移をしています。おそらく生活保護
となるまでの段階で、生活困窮者の自立相談支援相談に来てもらって
いる中で、生活保護に行かなくても、何とか立て直していただいたり、
相談乗っていただいたりする中で、何とかうまくいっているという場
合も多数あると思います。経済的な継続的支援というのは、なかなか行
政としては難しい部分があり、物価高騰関係の給付金という形も、国が
先行してやっているだけなので、自治体が独自でというのは、なかなか
難しいところがあります。行政として、自立していくための相談体制
と、引き続き、ケアしていくことが、行政にできることと思っていると
ころです。

(委 員) 向日市だけに限らず、京都府全域の問題点ではあると思っているの
で、フードバンクの活動をしています、フードバンクなかったときど
うしていたのかなというのが本当に多くなっています。

民間のできるところで協力していきますが、フードバンクありきに、
だんだんやってきたなというところが実感としてあります。

(委 員) 5 ページの 40 番について、地域福祉懇談会は、実施方法の見直しと
なっていますが、新しくどういう形で開催を考えておられるのかって
いうことが 1 点と、LINE で、寺戸公民館が建て替えの件をアンケ
ートしていて良いと思ったのですが、これからそういったアンケート
が増えていくのか教えてください。

あと最後に、何年か前にもお聞きしたのですが、保健センターの建物
自体がとても古くて、トイレもすごく古いままなので、赤ちゃん連れ
のお母さんや、小さいお子さん連れのお母さんがたくさん来られること

から、トイレの改修をしてほしいのですがいかがでしょうか。

(事務局)

現時点でも模索しているのですが、重層的な支援というところが、今行政としても大きな課題で、全国的にも動いているところがあるので、福祉団体だけの皆さんに集まっていたいて話を聞くというのもよかったのかもしれませんが、地域で活動されてない方であったり、いろんな他業種の方であったりが、集まって話をして、そういった形がそのまま重層的な支援につながっていくような話し合いの場を持てればいいかなと思っておりますので、次年度以降そういった形の仕組みができないかなというところで検討していきたいと思います。

(事務局)

寺戸公民館のアンケートについて、LINEで実施しているのですが、使いこなせている人と、そうでない方がいらっしゃるということや、答える動きをされる方と、そうでない方がいらっしゃるなど、偏りが出てくる可能性もありますので、LINEのアンケートで意見を聞くことに支障のないようなものについては、今後も検討していかなければならないかなと思います。ただ、それで全部を決めてしまうと、偏りが出てしまうので、どちらかというは無作為抽出した上でのアンケートの方が、全体の傾向を掴みやすいというところもありますので、どういう手法でしていくかというところは、その都度検討する必要があるかなと思います。

(事務局)

保健センターのトイレの問題は、重々把握はいたしておりますが、トイレだけに限らず、保健センター自体も老朽化いたしておりますので、保健センター自体のあり方も含めまして、今後検討課題とさせていただくということで考えております。

(委員)

先ほどから、何度も出ている重層的支援は、もし取り組んでいただけるのであれば非常にありがたいなとは思っております。

あと、7ページの61番のところの困窮者自立支援、困窮者に関する支援については、困窮というところから入口になって、隠れた課題がたくさんあるということもあるかと思っておりますので、どこかでSOSを挙げられたところから、必要なところにつながっていくというそういった仕組みができればと思っております。

(3) 次期計画のアンケート調査の実施について

- ・次期計画策定に向けた市民アンケートを実施することを事務局から説明